



この新聞はHP (<http://www.npo-asia.org>) でも読めます。上のQRコードを読み取ってください
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-18-22-414 E-mail: new-wind2006@npo-asia.org

リアル出席とオンライン視聴のハイブリッドで開催された総会・講演会

新型コロナウイルス感染症の対策の為、過去2年は対面での総会開催を見送って参りましたが、3年振りに会員の皆さんをリアル会場にお迎えして、第20回総会が9月18日(日)午後1時から新宿区市ケ谷のJICA地球ひろば国際会議場にて、34名の会場参加者に91名の書面参加を得て定足数を満たし、有効に開催されました。総会開始前に加納啓良理事長が挨拶されたあと、上高子理事長代行から役員紹介があり、続いて総会参加者の互選で正会員の斎藤利治氏が議長に選出され、議事に入りました。

西澤逸実理事、伊藤莞爾理事から2021年度の事業報告及び決算報告が示され、深尾和一監事から監査報告があり、いずれも承認されました。続いて西澤逸実理事、伊藤莞爾理事から、2022年度の事業計画及び事業予算が示され、いずれも承認されました。

続いて西澤逸実理事から、NPO法人の代表者を理事長とすること、理事長代行の名称を副理事長にすることなどの定款変更(案)が示され、承認されました。

西澤逸実理事より、7月10日付け理事会で任期満了に伴い役員全員が重任(2年任期)したと、8月7日付け理事会でタマサート大学日本語学科

タサニー・メーターピスィット先生を新たに顧問に委嘱したこと、報告がありました。タサニー先生はアジ風とタマサート大学の交流に永年にわたり貢献され、2022年9月末をもって退官されることになりました。ついては、これからのアジ風活動に対して助言等を頂くため、顧問を委嘱するものです。(※P2、参照)

2021年度のIメイト・オブ・ザ・イヤーには、荒木春洋さんが選ばれました。熊本県にお住いの荒木さんは、Iメイトとの交流の他、新春交流会、Iメイト交流会などのイベントにオンラインで熱心に参加され、アジアの日本語学習者と友情と信頼の確かな関係をはぐくむ努力を払われ、会員の模範となる交流を続けて来られました。そのご努力に敬意を表し、加納理事長より、総会・講演会にオンライン



＜一つになった会場＞

で参加された荒木さんに表彰状が授与されました。(※P2、参照)

また、赤阪清隆氏の講演とその後の質疑応答には30名のオンライン参加がありました。



＜ハイブリッド形式の授与＞

(事務局長 西澤 逸実)

赤阪清隆氏 講演録 「ウクライナ情勢と国連―日本への教訓」

赤阪清隆氏(公益財団法人 ニッポンドットコム 理事長)は日本の外交官で永年国際連合の広報担当事務次長として世界中の国連広報センターを統括されていた方です。

I ウクライナ侵攻



2022年2月24日、ロシアのプーチン大統領は、「ドンバス人民共和国はロシアに助けを求めてきた。これを受け、ロシアは国連憲章第51条に基づき、特別な軍事作戦を実施する」と表明。

これに対し、グテレス国連事務総長は「ウクライナの領土保全と主権に対する侵害であり、国連憲章に違反する」と激しく非難。また、米国のバイデン大統領も「ロシアのみがこの攻撃による死と破壊の責任を負う。米国と同盟国、友好国は連携して断固とした措置をとる」との声明を発表。岸田首相も「今回のロシアによるウクライナ侵攻は、力による一方的な現状変更であり、G7をはじめとする国際社会と緊密に連携し、ロシアに対する即時撤収、国際法の順守を強く求める」との声明を出した。

更にバイデン大統領は「プーチンは戦争犯罪人である」と告発、ウクライナのゼレンスキー大統領は「これはジェノサイドである」と述べた。

II ウクライナ危機―国連は何をしているのか

国連の機能として第一に挙げられるのが「国際の平和と安全の維持」であるが、総会は拘束力のない勧告しかできず、一方安全保障理事会の15か国のメンバーで法的拘束力を持った決定ができるが、5常任理事国が拒否権を持っている。

国連憲章は第2条・41条・52条で武力行使の禁止、及び平和

と安全の維持のために国連軍の活動を認め、また個別的・集団的自衛権の権利を認めている。しかしながら、2月26日の安保理でロシアに対する非難決議案はロシアの拒否権で否決された。

3月6日の国連総会の緊急特別会合ではロシアへの非難決議が141か国の賛成を得て可決され、安保理は機能しないが総会はある一定の役割を果たすことが示された。

III 日本への教訓

今回のウクライナ侵攻の日本への教訓は以下の通り。

- ① 戦争の推移の予測は難しい
- ② 危機時のリーダーシップが大事
- ③ 戦争を戦い抜く国民の高い士気
- ④ 自国の自衛力の重要性
- ⑤ 同盟の存在の重要性
- ⑥ 核抑止力の信頼性

船橋洋一氏は「国民安全保障国家論」で



＜質問に答える学生 会員・汪極超さん＞

「世界は自ら助くものを助く。一国の安全保障は国民自らが当事者意識を持たないと守れない、という時代になった」とのべている。

英エコノミスト誌は、「世界が日本から学べる事」として、急速な高齢化・経済の停滞・自然災害のリスクの先駆者である、としている。課題解決先進国として日本が貢献できる分野として

- ① 高齢化対策(雇用・健康保険・年金・介護など)
- ② 大気汚染対策
- ③ 省エネ
- ④ 廃棄物処理、食品ロス対策、プラスチックごみ対策などを挙げている。

最後に赤阪氏から「人的交流による相互理解の促進、という観点からアジ風の活躍に期待しています」とのメッセージを頂きました。(理事 伊藤 莞爾)

タサニー先生を顧問にお迎えして

17年前、アジ風とのIメイト交流を申し入れにタマサート大学日本語科を訪問。対応くださったタサニー先生のお腹には胎児が宿っていて、ハーブちゃんというお嬢さんは、今年タマサート大学へ進学し、Iメイト学生として登録されたとか。歴史を感じます！



(理事長代行 上 高子) <水色の洋服がタサニー先生>

就任のごあいさつ

タイにおける日本語教育は戦後から始まりましたが、本格的に普及したのは1970～1980年代のことでした。私が初めて日本を訪れたのは1980年で、ちょうど日本経済の黄金期だったため、国際交流が盛んに行われていました。日本語、日本文化、日本の技術などを学ぶために来日した様々な国の人たちと知り合いになり、国際交流の醍醐味を味わうことができました。帰国後に世界で活躍する人、国際社会に貢献する人も多いと思います。私は大学教員として勤務することになり、機会あるごとに学生達に留学中の体験や思い出を伝えたいと考えてきました。

Iメイトの学生達はNPOアジアの新しい風の会員の皆様と文章を交換することによりコミュニケーション能力を高めることができていると思います。また、日本文化や日本人の考え方に触れることにより価値観を広げ、日本の良さ、タイの良さを再確認することができていると思います。最近では就職の形態が変わりつつあり、グローバル化の社会においてどのような人材を育成すればライフワークバランスの取れた人生を送ることができるかが最も

難しい時代に入ってしまった感じがいたします。シャイな性格をもつタイの学生が多いと思いますが、グローバル化の進む社会で生き生きと社会貢献のできる人材としてこの学生たちを育てていくことにご協力いただけますようお願いしております。これからもご高配のほどよろしくお願いいたします。(タサニー・メーターピスィット)

2021年度Iメイト・オブ・ザ・イヤーは荒木春洋さんに

今も続くIメイト交流

Iメイト・オブ・ザ・イヤーに選ばれて本当に光栄です。9年前に故郷の熊本に帰郷して以来、外国留学や熊本地震などもあり、アジ風の活動に参加することが少なかった私にとって、受賞の連絡はまさに青天の霹靂でした。アジ風に入会して今年でちょうど10年になります。その間に交流したIメイトは、貿易大の詩歌スピーチコンテストで優勝し副賞の招待旅行で来日した後日本留学を果たしたチャンさん、パジャジャラン大最初の日本留学生となったナディアさん、コロナ感染が最も激しかった時期に内定していた熊本大への留学をあきらめざるを得なかった貿易大のアインさん、そして昨年の「コロナ後の10年」スピーチコンテストで「誰も取り残されない社会に」と訴えた貿易大のタインさんの4人と少ないのですが、皆さんとは本当によい交流ができ、そして今も続いています。



また、私のアジ風活動を入会以来ずっとフォローしてくれた妻(現在は正会員)にはとても感謝しています。九州在住のため、東京や関西での交流会への参加は難しいところがありますが、その分オンライン交流会には今後も積極的に参加したいと思っています。(正会員 荒木 春洋)

Iメイト交流を愉しむための研修会

7月24日、市ヶ谷のJICA地球ひろばで、Iメイト研修会を開催しました。

コロナ感染が下火になっていくであろうことを見込んで、対面での開催を予定しましたが、まだコロナ感染の不安もあり、遠方の方の便宜も考えて、オンラインでも参加できるように、ハイブリッド形式で行いました。



<くながやかなハイブリッド会場>

2020年2月に新春交流会を東京で開催して以後、2年半ぶりの対面イベントでしたが、直前にキャンセルが6名。本人や家族のコロナ陽性が判明した方、職場で感染者が出て濃厚接触者のため参加を控えた方、家族の支援が必要になった方など、コロナ禍での開催の難しさを実感しました。当日の参加者は30名で、そのうち会場参加は21名、オンライン参加は9名でした。

この研修会のためにWebカメラと三脚を購入し、JICAの機材も借りて、3台のパソコン、3本のワイヤレスマイクで、実施の1週間前にリハーサルも行い、多くの皆様のご協力で、無事にハイブリッドで行うことができました。

当日のプログラムは以下の通りです。

まず、5月に行った学生と会員へのIメイト交流についてのアンケートの概要をグラフで奥山理事が説明しました。

その後は、全員の自己紹介。オンラインと現地参加の皆さんの

声も映像もクリアに届きました。

次はパネルディスカッションの形式で、Iメイト交流の体験談を3名の方から伺いました。

司会は上高子理事長代行、パネリストの鈴木一美さん、原谷洋美さんは会場から、須賀智之さんはオンラインで、交流の経験談を、上手くいって例、途中で途切れてしまった例なども交えて、三人三様の交流スタイルを紹介してくださいました。

次に「おしゃべりの場」の紹介です。学生たちの会話の実戦として、自由な会話の場を提供しようという目的で、昨年の総会以後タマサート大学を皮切りに、パジャジャラン大学、貿易大学の3校が行っています。学生も会員も自由参加でオンラインで実施しているイベントの紹介を、担当の武田高理事が行いました。

その後、オンライン参加は2グループ、リアル参加は4グループに分かれ、学生のメール文をもとに添削の方法や交流を長く続けるコツ、交流が滞ってしまったときの対処法など充分に間隔を空けてグループディスカッションなど体験を披露しあい、約1時間の話し合いは会員同士の懇親の場にもなりました。



最後に各グループの代表に、それぞれのグループで話し合った内容の発表があり、参加者全員で共有できました。

Iメイト交流は秋から新しい学生との交流が始まります。学生も会員も新しい出会いにワクワクしていることでしょう。研修会が今後のコミュニケーションのお役に立てたら、幸いです。

(Iメイト交流担当理事 奥山 寿子)



I メイト交流研修会へ参加して

初めてのボランティア活動参加ということもありワクワク感と少し緊張気味で参加しました。先輩会員の方々の生の経験談をお聞きすることができ有意義な時間が過ごせました。



パネルディスカッションの、I メイト学生3人とのオンライン4人ミーティングのお話は特に印象的でした。オンラインミーティングは今後の活動の新しい形式になっていくのではないのでしょうか。

グループディスカッションではテーマにあまりそぐわない議論になってしまいましたが、成功例と不成功例の他にアジ風活動が語学レッスンのようにとらえられている様子、20年間の中国の学生の意識の変化など多岐にわたる現場の本音を聞くことができました。

リアルとリモート混在の会運営は初めてとのことでしたが違和感はありませんでした。ただやはり直接お会いする方が良いなと感じています。

研修会を実施いただいた事務局の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(正会員 小関 高志)

自分なりの方法を見つけていきたい

今年4月にアジ風に入会し、初めてI メイト交流研修会に参加させて頂きました。

前半のパネルディスカッションでは、各々のパネラーの方からうまく行った事例、うまく行かなかった事例を具体的にお話し頂き、I メイト交流がどんなものかイメージを掴むことが出来ました。



後半のワークショップでは理事の古海正子さん進行の下、中国の学生のメール文を皆で読みながら、メンバーの方々から、「いちいち細かく指摘して相手にやる気を失わせたりしてはいけないし、スルーばかりでもいけない」との声が上がり、文面に対しコメントを入れる部分や程度のさじ加減が難しいと感じた反面、逆にそれが面白いところではないかとも思いました。

最終的にグループでは「大枠が理解出来れば細かい《てにをは、時制、送り仮名》などには触れず、日本語を正すよりコミュニケーションを深めていくことが大事である」との合意に至りました。その話し合いの過程で、皆さんそれぞれ工夫をされ自分なりの方法を持っておられると感じましたので、今後自分も試行錯誤しながら自分なりの方法を見つけていきたいと思ひます。

(正会員 千歩 和人)

追悼—河村新蔵さんと私がI メイトになったことを、深く感謝する

河村さんと初めてメールしたのは2013年。私は川端康成の『雪国』を読んだと言ったら、今山形に住んでおり、冬は雪が厚く積もるとの返信が来た。また、日本人はみんな野球が好きなのかと聞いたら、僕はサッカーが好きで、家族でサッカーゲームをするくらいの人数がいるとの返信が来た。その後、河村さんが数学講座のため北京に来られたとき、「河村さんは優しい先生ですか」と聞いたら、若い頃はとても厳しく、学生が寝ているのを見たら、チョークを投げつけるよと笑った。

来日した後、一度東京で会った。山形から駆けつけてくれた河村さんが、お土産として重たいお米を持って来てくれた。その後、思わぬコロナが始まった。コロナの終息がようやく見えてきたのに、まさかの河村さんの診断結果の連絡が来た。人は、軽い病気なら医師の判断が正しいことを願い、大きな病気なら医師の判断が間違っていることを願うという、矛盾した感情を持つものだね。河村さんに何を言えば良いか分からないが、とにかく会いに行かなければならないと思って山形への新幹線に乗った。

お家で河村さんの雑誌への寄稿や講演資料などを読みながら楽しくおしゃべりしていた。内容は学術的なものだけでなく、数学に関わる生活の中での小さな発見もたくさん載っており、本当に数学を貫いた人生だと感じた。



＜最後のお見舞い。
6月山形にて＞

また、河村さんに結婚の報告をしたら、喜んでもらった。楽しすぎてこのまま生きていくだろうと思ってしまった。ただし、駅で別れたとき、「また会えるといいね」と言われ、「そうだ、これが最後かも」と現実に戻った。毎日「今日が最後かも」という気持ちで生きるのはどんな感じだろう。しかし、河村さんはそもそもそのような気持ちがないかもしれない。「死は悲嘆にくれるものではなく、そこに深い必然性と意味がある」と思っている彼は大自然で安らかに過ごしているだろう。

(賛助会員 王 鶴)

会員紹介

吉岡 京子さん

吉岡さんは奈良県生まれです。関西学院大学文学部で日本史を専攻されましたが、学生時代にアメリカとの交換留学制度でカリフォルニアに6週間短期留学されました。その時受け入れてくれたホストファミリーの愛情を忘れることが出来ず、将来どこかの国から留学生が日本に来ることがあれば、今度は自分がお手伝いしようと心に決めておられたということです。

大学卒業後に新たにフランス語習得に目覚め、日仏学院に通うようになられました。上のお嬢さんが中学2年生、下の息子さんが小学校3年生になられた夏休みのこと、上のお嬢さんを国際交流基金の留学制度でアメリカに送り込み、下の息子さんはおじいちゃん・おばあちゃんに預けて、ご自身は何とパリはソルボンヌ大学の「外国人の為のフランス文明講座」に飛び込まれました。そこではベトナム留学生にベトナム人に間違われたりしながら、各国の留学生と楽しく寝食を共に過ごされました。

そうして身に着けたフランス語を駆使し、江戸東京博物館の

フランス語ガイドや長野オリンピック・パラリンピックでのモナコ国団長付きボランティアなどで大いに貢献されたのです。

関西学院大学の同窓会でアジ風の奥山寿子理事に出会ったことが、入会したきっかけなのですが、吉岡さんのご主人は何と高校大学共に奥山理事の同級生だったのです。そんな不思議な縁も手伝って、「これからはますますアジ風の活動に力を入れます。今は私だけですが、その内主人もきっと仲間に入れるわ」とにこやかにおっしゃいました。

アジ風に入会されたのはコロナ禍になってからのなので、いろいろの活動は殆どがZoom利用ばかりで、学生の日本語を添削してあげる機会も少ないのが残念とか。

今は奈良に戻られ、ご主人のご実家にお住まいですが、町全体が歴史博物館のような奈良をアジ風の留学生を案内して廻りたいのだそうです。

インタビュアー：園田 成和





今回はパジャジャラン大学の学生達と交流されておられるお二人からです。二人ともアジ風入会歴は短いのですが、桑江さんはケニアとタイに駐在されたこともあり、長年国際報道に従事されていたシニアの方で、谷口さんは学生会員として同世代のIメイト学生との交流をされているという対照的な二組です。同大学とは現在ほぼ毎月一回「おしゃべりの場」を設けており、学生達からの希望のテーマをもとに交流の機会が増えています。

(Iメイト交流コーディネーター 鈴木 一美)

桑江勝巳さんとフィニー フィディニラーさんの交流

桑江さん→フィニーさん

2021年11月9日

「アジアの新しい風」からあなたの名前を紹介してもらいました桑江勝巳(くわえかつみ)といいます。日本語の勉強を通して、あなたの夢やお互いの国の文化、人々の生活などについて楽しく話しましょう。

フィニーさん→桑江さん

11月10日

私は3年生のフィニー フィディニラーと申します。私は日本語の勉強は楽しかったですが、話すことはまだ難しく、漢字を覚えるのは苦手です。それでも、やめようと思ったことはありません。努力が結果を裏切らないと信じています。日本語の学習で自分の夢を実現したいと思っています。将来、日本語の教師か翻訳かになりたいです。これからも日本語のスキルをさらに向上させたいです。もし、私の日本語が間違っていたら、訂正していただければ嬉しいです。日本語の学習支援をお願いします。ありがとうございます。

桑江さん→フィニーさん

12月27日

フィニーさんの文章はほぼ完璧で、びっくりしました。外国語の会話を習うには、その国のことばで直接話したり聴いたりするのが、一番いいと思います。たくさんお話しやメールをしましょう。応援します。

桑江さん→フィニーさん

2022年4月19日

「断食月」についても、いろいろ教えていただきありがとうございました。ご家族に会えて楽しいですね。「断食明けに出される好きなメニュー」についての報告も読みました。とても上手にできていて、説明もよく理解できました。ただ、アンケートの結果について説明するには、何人がアンケートに参加したかが一番大事だと思います。報告のまとめ方の例として、手直ししてみました。参考にしてください。

フィニーさん→桑江さん

4月25日

後1週間でラマダン月が終わります。インドネシアでは多くの人が家族に会うために故郷に帰ってきています。それは伝統なので、わたしもジャカルタの家族に会いに行きたいと思っています。

谷口華歩さんとオデッタ アリシャさんの交流

オデッタさん→谷口さん

2022年8月20日

かほさん、こんばんは!



返事が遅くなって本当にすみません😓💧先週から大学の新生向けのダンスパフォーマンスの準備で忙しくて、あまりメールを見ませんでした...😓😓

それとなぜか、私のメールはちょっと変で、メッセージを送ってから3~4日経たないと表示されないんです。てっきり、かほさんは

前回のメールに1週間まで返信がなかったと思いました。実は送信されてないんじゃないかと思いました😓😓でも、送信されて良かったです😊✨

オープンキャンパス楽しそうですね! かほさんのような考古学をもっと知りたいという情熱的な人が来てくれて、教授もきっと喜んでくれると思いますよ😊✨

私が高校生の頃、オープンキャンパスもあって、料理のプレゼンテーションをしているものがありました! しかも、その場で出来立ての食べ物を食べさせてくれましたよ! 本当に楽しかったです😓

LineのQRコードありがとうございました😊❤️そちらでもたくさん話しましょうね😊✨ 暇になったら挨拶のメッセージを送りますね😓😓

谷口さん→オデッタさん

8月22日



私も返信が遅くなってしまってすみません。

オデッタさんのメールは多分すぐに表示されていると思います。私が塾や学校の宿題に追われてすぐに返信できないだけです😓😓💧

新生向けのダンスパフォーマンスですか😓わああ! 楽しそう! オデッタさんは何を踊るのですか?😓

オデッタさんのカッコいいパフォーマンスが見れる新生が羨ましいです😓

あと数日で夏休みが終わります😓 夏休み明けはすぐにテストがあります...

テストの頻度が高すぎて、毎日テストをしている気分です😓

今後の行事予定

*詳細はHPを参照

10月~11月

Iメイト交流のマッチング
(4校と1グループ)

11月8日(火)

第8回山歩き 山梨県高川山散策と
リニア見学センター訪問

2023年2月

新春交流会
スピーチコンテストを計画中
(創立20周年プレイベント)

・・・編集後記・・・

総会での赤阪氏の講演で示されたパワーポイントで、「もし戦争が起こったら国のために戦うか」という質問に対し、日本の18才以上のサンプル調査では13%しかYESと答えなかった、という結果に会員のどよめきが起こりました。お隣の韓国では67%がYESと答えています。第2位のリトアニアでも33%がYESと答えていますからね。

でも、私がショックを受けたのは、日本の13歳から29歳の若者に対して行われた「40歳くらいになった時、どのようになっていると思うか?」という質問に対し、「お金持ちになっている」とか、「世界で活躍している」といった回答は10%以下で、多くは「自由にのんびり暮らしている」「子供を育てている」「親を大切にしている」といった小さな幸せを求めているということでした。

我々団塊の世代は、とにかく海外に出て活躍したいと思っていましたが、隔絶の感があります。
(伊藤 莞爾)